

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	10	05	01	104350	青少年活動推進事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進			
	施策	02	青少年の社会教育					
目的	児童・生徒・青少年の「ひとづくり」・定住を見据えた地域を愛する心の涵養							
対象	少年、青少年関係団体及び市内の幼児・児童・生徒を持つ保護者、新成人							
意図	青少年の育成や活動を支援し、自立した青少年を育む							
事業概要	はなまき！おもしろ探検隊開催 6回 140千円 青少年関係団体支援 ・青少年関係団体（3団体）への補助 209千円 成人式開催 1,501千円 ・式典の部（市主催）、記念行事の部（成人式記念行事実行委員会主催） Web開催 ・フォトスポットの設置（2か所） 共通経費 39千円							
市民参画の有無								
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	H31	R02	R03	
1	成人式アンケート回収率			%	計画	30.00	30.00	
					実績	33.30	0.00	
2	青少年体験活動支援行事の開催回数			回	計画	4.00	3.00	
					実績	3.00	3.00	
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	H31	R02	R03	
1	成人式に参加された方の満足度			%	目標	90.00	90.00	
					実績	92.00		
2	青少年体験学習参加者数			人	目標	110.00	110.00	
					実績	75.00	20.00	
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
「成人式に参加された方の満足度」は、毎年成人式の内容を検証したうえで改善を重ねており、例年のアンケートでは90%を超える高い割合を示しているが、令和2年度についてはコロナウイルス感染症の影響により、Web配信での開催に切り替えるなど、従来どおり新成人が一堂に会しての成人式が開催できなかったことからアンケートの実施についても困難であった。 はなまきおもしろ探検隊は、コロナウイルス感染症予防対策として、例年よりも参加人数を少なくして（28名から20名に）開催。新たな生活様式に則してマスク着用等のプログラムとなったが、アンケートの結果からは、子供たちが楽しみながら活動し、地域の魅力を体験することができたと思慮される		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少子高齢化や核家族など社会が変化している中で、青少年が健やかに育つ環境づくりや、定住を見据えた市の将来を担う人材として育成支援に市がかかわることは重要なことである。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	青少年の郷土を愛する心を涵養することは「花巻で仕事をしたい」「地域に関わりたい」という将来の定住意識の涵養にもつながると思料されるとともに、事業の実施を通じ、児童の家族や市民の青少年教育に対する認識が向上するものと思料される。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・事業は、節減努力を図り必要最小限で実施していることから、削減余地はない ・職員が関わるのは、補助金交付事務、連絡調整等が主な業務であり、人件費の削減余地はない
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市内在住の全ての青少年を対象としており、受益機会は均等である
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	「はなまき！おもしろ探検隊」 ・学区を超えた全市児童を対象に「はなまきをもっと大好きになるう！」をテーマに、高校生ボランティアも運営に参画し、子供たちとの一体感の醸成や達成感・自己肯定感・花巻をもっと好きになる心の醸成に貢献したものと思慮される。（児童20人参加、高校生ボランティア20人参加）
	次年度に向けて	青少年体験活動事業においては、高校生等のボランティアリーダーが活躍できる場を展開し、児童・生徒から青年層まで年齢に応じた体験の循環が出来る事業を目指していきたい。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	01	124010	非核平和推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進	
	施策	02	青少年の社会教育			
目的	非核平和に対する意識の醸成を図るため、平和の尊さを感じる機会として非核平和推進事業を行う。					
対象	市内小学校の児童及び中学校の生徒					
意図	平和の尊さを感じ、非核平和に対する意識を高める。					
事業概要	非核平和学習会の開催 2千円 新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止 非核平和学習会感想文集の発行 0千円 非核平和学習会の開催中止に伴い実績なし 平和教室等の開催 53千円 非核平和に対する意識を醸成するため、中学校等において平和教室（非核平和講話、紙芝居、平和ビデオ上映会、平和ポスター展）を開催したほか、非核平和展（平和ポスター展、花巻空襲関連資料展、平和ビデオ上映）を開催 平和教室7回開催（合計244人参加） 非核平和展を花巻市博物館にて18日間開催（期間中の博物館の入館者数1,132人）					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	非核平和学習会の参加児童数	人	計画	9.00	9.00	
			実績	9.00	0.00	
2	平和教室の開催回数	回	計画	5.00	5.00	
			実績	1.00	7.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	非核平和学習会に参加して「勉強になった」と感じた児童の割合	%	目標	100.00	100.00	
			実績	88.89		
2	平和教室に参加して「勉強になった」と感じた児童及び生徒の割合	%	目標	100.00	100.00	
			実績	100.00	96.70	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
平和教室に参加した児童及び生徒にアンケート調査を実施。児童及び生徒の非核平和に対する意識は高く、アンケートに回答したほとんどの児童及び生徒が「勉強になった。」と感じており、令和3年度も同様の成果を目指す。		
成果指標1は新型コロナウイルス感染症の影響により実績値なし		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市が平成18年3月に宣言した「非核平和都市」を推進するものであり、民間等で類似する事例もないことから、市での実施が妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	平和教室に参加したほとんどの児童が「勉強になった。」と感じているが、平和教室の開催周知に努め、より多くの学校等で開催することにより成果の向上が見込める。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の事業費であり、削減は難しい。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	非核平和学習会、平和教室ともに、学校を通じて公平に周知し、参加者、参加校を募集している。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	平和教室を通じて、紙芝居や平和ビデオ上映会により、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを非核平和に対する意識が高い児童や生徒等が学ぶことで、非核平和に対する理解が深まり、高い非核平和意識の醸成につながった。
	次年度に向けて	非核平和の尊さを後世に伝えていくに当たり、子どもたちや市民における非核平和の意識を醸成していくため、平和教室の開催周知に努める。

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	03	02	04	134660	少年センター運営事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進	
	施策	02	青少年の社会教育			
目的	少年の非行防止及び健全育成のため、補導、啓発活動及び少年相談を行う					
対象	青少年（小学生から20歳未満）					
意図	青少年を取り巻く環境の浄化を図り、健全な青少年を育む。					
事業概要	少年補導委員による街頭補導活動 3,384千円 青少年問題協議会の開催 0千円（開催実績なし）					
市民参加の有無	無し					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	街頭補導活動数	回	計画	408.00	408.00	
			実績	337.00	298.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	非行少年補導数	人	目標	0.00	0.00	
			実績	0.00	0.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
成果指標は街頭補導活動における非行少年補導数とする。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少年の非行防止及び健全な育成に関し、市が主体となり関係機関と協調を図り効果的な活動を推進する。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	警察、防犯協会、スクールガード等地域ボランティア等が連携することで更に成果向上が見込まれる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	巡回計画や集計報告等最低限の事務を職員が行っている。最小経費のため、削減できない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全市民を対象としているため公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	少年の非行防止及び健全育成のため、少年補導委員による街頭補導活動を行ったことで、非行少年を生まない社会づくりの推進が図られた。
	次年度に向けて	今後も少年の非行防止及び健全育成のため、引き続き事業を継続する。